

### 1 課題

- ◆ 職場体験学習の体験先が固定化し選択肢が限定、体験先の確保も困難なため、職場体験の在り方を見直す必要がある。
- ◆ 生徒や保護者への産業系専門高校の周知と理解をより図る必要がある。
- ◆ 小・中学校を通じた体系的なキャリア教育を推進する必要がある。

### 2 今年度の取組み

#### (1) キャリア教育推進会議

(第1回:H30.10.15、第2回:H31.2.18)

学校関係者、企業、労働局、関係課等で具体的な対策を協議

- ◆ 生徒の職業観を育成するために、各種団体の学校訪問をさらに充実させる。⇒(2)(3)
- ◆ 産業系専門高校の主な活動や取得できる資格、卒業生の活躍を紹介するリーフレットを作成して、中学生の進路選択の幅を拡大する。⇒(4)
- ◆ 小・中の研究校を指定し、9年間をつなぐキャリア教育を推進するための具体策を協議、実践⇒(5)

## (2) 各種団体の学校訪問の実施

起業家、労務士会、企業団体を新たに加え、様々な職業を知ることができる機会を設けて実施

	専門高校	起業家	労務士会	企業団体
小学校	0校(0)	1校(0)	0校(0)	1校(0)
中学校	6校(5)	1校(0)	1校(0)	8校(0)

( ) : 前年度実施校数

## (3) 職場体験学習の在り方の見直し

これまでの職場体験(3日間の企業等への訪問)の内容を拡充し、各種団体の学校訪問も含めた体験へ

- ◆企業等を訪問する職場体験3日間＋各種団体の学校訪問1日実施
- ◆企業等を訪問する職場体験を3日間実施
- ◆企業等を訪問する職場体験2日間＋各種団体の学校訪問1日実施

## (4) 産業系専門高校を紹介するリーフレットを作成

## (5) 改訂「キャリア教育ガイドブックー小中9年間をつなぐ」の活用と小・中を連携した研究校の指定

- ◆平成30, 31年度は鶴沢小、葛城中を指定

## 鶴沢小:学校キャラバン

大成建設:測量機器体験、安全带など保護具  
装着体験

千葉土建:カンナがけ体験

JM:ドローン操作体験、AR体験



### <児童の感想>

- ・いろいろな技術が組み合わさって家や道路が作られていることを知り、建設業に興味があった。
- ・カンナがけを体験してテレビで見るよりずっとむずかしいと思った。

## 葛城中:企業団体による職業講話 -5つのブースに分かれて学習-

ほんだくらぶ(福祉関係)

千葉県自動車大学校(自動車業)、

立山工業(建設業)、山崎製パン(食品業)

ベイキューブシー(情報サービス産業)



### <生徒の感想>

- ・介護はコミュニケーション能力が必要と改めて知ったので、能力を身につけるために人と積極的に関わろうと思った。
- ・自分の決めたことを最後までやり抜くためにまずは細かい目標を立てていこうと思った。

### 3 今後の取組み

(1) 雇用のミスマッチを改善する技能・技術職を担う人材の育成を促進するため、職業教育の改善をさらに進める。

＜改善の視点＞

- ・実際の体験と講義とを織り交ぜたプログラム開発を各種団体へ依頼
- ・技能・技術者の学校訪問による体験学習の実施
- ・安全確保が必要な職種での体験プログラムの検討



「千葉市経済成長アクションプラン」

- ◆ 求職者側に於いては、求人倍率が低いにも関わらず事務的な職業への志向が強く、技術系などの人手不足が顕著な職種には目が向いていないことが大きな課題。
- ◆ そこで、技術系職種へ進むことでキャリアアップの可能性が広がることが理解できるよう、小中学生など早期の段階から将来の職業を考えるにあたって視野を広げるとともに、様々な職業に触れる機会などを設けることや、就職を控えた高校生や大学生などに職業選択や就職活動に資する適切な情報や機会を提供するといったキャリア教育の更なる充実が必要。

(2) ものづくり企業や技能・技術者等による学校訪問の実施及び資料等を用いて、生徒や保護者に現状や今後の職業選択について啓発を図る。

○ 新たに技能・技術者を加え各種団体による学校訪問を拡充

<平成31年度の予定>

	専門高校	起業家	労務士会	企業団体 (製造業含む)
小学校	0校	6校	6校	38校
中学校	14校	2校	9校	9校

※専門高校の学校訪問は、平成32年度末までに全中学校で実施予定

○ 中学3年生と保護者への産業系専門高校を紹介するリーフレットの配付

○ 中学2年生への技術・技能系啓発冊子(STYLES)の配付